

02

誰も教えてくれないこと

M A Y・月

1サム 16:15～23 神の霊がサウルに臨むたびに、ダビデは立琴を手にとって、ひき、サウルは元気を回復して、良くなり、わざわざの霊は彼から離れた。(23)

新 620 番 つどうわれらは (旧 なし)

- 聖句暗唱 _ 1 コリ 4:1
- 聖書通読 _ 使 23:9-10

Q.

み霊よ、われ歌う時

／新讃美歌 195 番

み霊よわれ歌う時 / 旧 175 番

※ 記事には1番の歌詞が引用されていますが、著作権の関係により、PDF 版は掲載を省略いたします。お手持ちの讃美歌をご覧ください。

悪霊につかれたサウル王には、そばに政治家、専門家いましたが、対応できませんでした。しかし、契約を持ったひとりダビデを通して、悪霊が離れる答えを体験しました。このように、世の中には霊的問題が満ちているのに、誰もその原因と答えを教えません。私たちは霊的権威を持つひとりとして、現場を生かさなければなりません。どのようにすれば良いのでしょうか。

1. 問題の理由と解答を知って伝えるべき

多くの人が悪霊に苦しめられて霊的問題に陥っているのに、理由^{創 3、6、11 章}を知らない苦しみの中で、もがいています。宗教を探して教会に行くのですが、正確な福音を悟ることができず、さらに深い問題^{使 13、16、19 章})に陥ったりもします。私たちの周辺にいるほとんどの人は、自分の問題をどうて話すこともできずに苦しんでいます。その人々に、人の力ではなく、女の子孫が蛇の頭を踏み砕いた事件^{創 3:15}、血を塗った日に出エジプトした歴史^{出 3:18}、賛美によってサウル王についての悪い霊が離れた証^{使 13}を通して、天の権威と力を伝達しなければなりません。

2. 聖書を根拠に未来を見て契約を回復すべき

聖書は強大国の未来、偶像崇拜の結末、まことの福音を味わうことができなかつたイスラエル民族の滅亡を話しています。三つの預言の核心は、天の権威を受けて味わう者を通して世の中が回復することです。権威に満たされれば、いくら問題が繰り返して、できごとが解決しなくても関係ありません。そのとき、サタンがひざまずくようになり、まことの霊的勝利を見るようになります。

契約の祈り

神様、すべての栄光を神様に帰します。天の権威を持つ私を通して、現場の暗やみが砕かれ、神の国が臨みますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

03

神様のことで編集

M A Y・火

使 18:1～4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人とギリシヤ人を承服させようとした。(4)

新 438 番 恵みに満たされ (旧 495 番 恵みに満たされ)

- 聖句暗唱 _ 1 コリ 4:1
- 聖書通読 _ 使 23:11-12

Q.

神様が願われる産業人

神様が探しておられる産業人は別にいます。それは、時代の流れを変える人です。

実力がある人ではありません。神様と合う人でなければなりません。

お金をたくさん儲ける人ではありません。次世代のために献身する人でなければなりません。

さらに、多くの献身をしたと考えず神様の特別な恵みを受けて主に仕えたのだと感謝する人です。

神様は人間をご自身のかたちとして造られ、いのちの息を吹き込まれました。人間だけが礼拝をささげることができる資格を受け、ただみことばで生きる存在として造られました。私たちはこのような霊的事実を刻印して、神様の霊が私たちの中に臨むように祭壇を築かなければなりません。どのようにすれば良いのでしょうか。

1. 神のかたちの回復、カルバリの丘の権威の味わい

神様のことで刻印されることができなければ、度々私の考えどおりに行って、結局、宗教生活に陥ってしまいます。いのちある福音を体験するには、神のかたちとして造られたアイデンティティを契約として握って、みことばの中で将来と夢を見なければなりません。これは、幻を体験しなさいということではなく、福音 24 しなさいということです。また、イエス様がすべての問題をカルバリの丘で終わらせたという事実を権威として味わって、マルコの屋上の間の力を受けなければなりません。産業人のまことの成功は、この力で可能です。

2. みことばの中で導き

普段から御座と通じる信仰生活をしたプリスカとアクラ夫婦は、伝道者パウロとの出会いを通して人生の転換点を迎えました。彼らは、時空を超越する答えをともに味わい、世界福音化の始まりになる会堂運動の主役になりました。このように、産業人は神様がなさることをみことばで確認して導かれなければなりません。

いのちある福音を味わう方法は簡単です。講壇のみことばを神様の御声として聞いて、一人で祭壇を築く時間を持てば良いのです。

契約の祈り

神様、私たちの中に神のかたちが刻印されて、カルバリの丘の契約と権威を 24 時味わいますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

04

神様に向かう設計 — 巡礼者の道

M A Y・水

使 2:9～11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいるいるな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞くことは。(11)

新 292 番 主イエスなしには (旧 415 番 主イエスなしには)

- 聖句暗唱 _ | コリ 4:1
- 聖書通読 _ 使 23:13-14

Q.

24 祈り

神様はすでに私たちの霊に天の御座の祝福を注いでくださいました。私たちは上から与えられた力と能力を、産業、学業、出会いなど、すべてに適用させなければなりません。そのためには、普段から霊的祭壇を築いて 24 祈りを始めなければなりません。24 祈りをささげれば、すべての問題の答えを発見する過程で喜びを味わうことができ、感謝が出てくるしかありません。

私たちはすでに、私中心、挑戦、熱心体質になってしまっています。さらに大きな問題は、ネフィリム文化で掌握された世の中の言いなりになっているのです。考えは心を動かして、心は霊を動かします。霊は、神様がいる所とない所、二つのうち一つを選択します。それゆえ、私たちの霊的な私たちはいつも御座に向かっていなければなりません。どのようにすれば良いのでしょうか。

1. 制限されて選択された集中

プリスカとアクラ夫婦とパウロは、どんな生活を味わったのでしょうか。彼らは、祈りの奥義を味わいました。あれこれ多くのことをするのではなく、制限された時間内に、ひたすら祈りに集中しました。核心は、御座の力を実際に受けて味わえば良いということです。特に、40 日祈りは、産業人が挑戦するのに良い集中の時間です。プリスカとアクラ夫婦の行跡でわかるように、時空を超越する経済の答え、職業が宣教になる祝福を受けるようになります。

2. Oneness 集中

私たちが神様のみこころを探し求めるのは当然のことです。神様は信徒のすべてが Oneness になって、全世界 237 国を生かす光の経済を回復し、世界福音化を成し遂げることを願っておられます。私たちは、神様の絶対目標に向かう中で、Oneness となる集中を始めて、出会いの祝福を味わわなければなりません。

ネフィリム文化が世界を動かしています。しかし、神の国の 25 を味わうひとりを通して、神様が働かれます。

契約の祈り

神様、祈りの集中の中で、御座の力を体験して、ネフィリム文化に掌握された世の中を生かす光の経済を回復しますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

05

征服者の祈り

M A Y・木

ロマ 16:3～4 キリスト・イエスにあって私の同労者であるプリスカとアクラによるしく伝えてください。この人たちは、自分のいのちの危険を冒して私のいのちを守ってくれたのです。この人たちには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています。

新 550 番 ああうるわしきシオンの朝 (旧 248 番 ああうるわしきシオンの朝)

- 聖句暗唱 _ | コリ 4:1
- 聖書通読 _ 使 23:15-16

Q.

ネフィリム文化を

征服する産業人の祈り

教会がますます世の中のことを中心に回っています。サタンがいたずらをする創世記 3、6、11 章の現実になるしかありません。下手すると、教会はサタンのお手伝いをするようになります。そのようになれば、教会堂が偶像崇拜する神殿^{使 13、16、19 章}と、どこが違うのでしょうか。深刻なのは、ネフィリム文化に最適化されたサミットが、世の中を主導する時代を迎えているという点です。

教会は目を覚ましていなければなりません。これは、産業人が目を覚まして、本格的に征服者の祈りを始めなければならないということです。今は、祈りの力がいつの時よりも切実な時代になりました。ローマを征服したプリスカとアクラ夫婦の契約を再確認して、征服者の祈りを始めてください。祈るひとりが、ひとつの地域の教会になる祝福が臨むようになります。

暗やみの世の中を征服するには、24、25、永遠の奥義を味わわなければなりません。この祝福をよく味わったプリスカとアクラ夫婦は、ローマ福音化に参加しました。方法は簡単です。講壇の流れを絶対にのがさなければ良いのです。ここから出てくる力、体力、経済力の流れで現場を生かせば、私に対する神様の空前絶後の計画を発見するようになります。

1. 永遠の祝福をあらかじめ見た同労者、助ける者

どんなに小さいことでも、神様が願われることに献身すれば、空前絶後の奥義を見るようになります。パウロと使命が最もよく通じたプリスカとアクラ夫婦は、自分たちのいのちの危険を冒すほど、パウロの伝道活動に献身しました。永遠の祝福^{ロマ 16:25～27}をあらかじめ見たからです。フィベもやはり、伝道者の祈りの中にいつもあった産業人で、伝道者を助ける人の役割を忠実にやり遂げました。

2. 危機と迫害が問題にならない家主

ガイオは、パウロをはじめとして、すべての伝道者の家主の役割を果たしました。伝道者のすべての経費を与え、チーム構成を通して伝道活動に力を入れました。初代教会を迫害したユダヤ人も、あえて触ることができなかった人物が、ガイオです。このように、産業人は危機と妨害が問題にならないほど、光の経済を味わって、弟子の規律と器を備える準備が必要です。

祈りが変われば生活が変わります。すべての現場に聖霊が臨むように祈って、小さいこと、すべての事件の中で、神様の空前絶後の計画を細かく確認する祈りが始まらなければなりません。

契約の祈り

神様、私に伝道者の同労者、助ける人、家主の使命をくださったことを感謝します。講壇の流れと祈りの力で現場を生かす産業人になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

06

M A Y・金

幼いダビデの信仰告白

1サム 17:42～47 この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。この戦いは主の戦いだ。主はおまえたちをわれわれの手に渡される。(47)

新 524 番 ゆく道はひとすじ (旧 313 番 ゆく道はひとすじ)

- 聖句暗唱_ヤコ 4:7
- 聖書通読_使 23:17-18

Q.

信仰は危機の瞬間に
あらわれます

危機に会うと、あなたはどんな姿になりますか。解決策を見出すために、忙しくなりますか。頼れると思う人々に連絡をしますか。大した問題ではないとごまかしますか。

危機は神様の力を体験して、私たちの信仰を点検する機会です。これからは、危機に会えば、神様が私にくださった契約を確認して、完全に主だけを待ち望んで頼る祈りに挑戦しましょう。祈ると決断するだけでも、神様は私たちに未来を見せて、まことの平安の答えを与えてくださいます。

はじめにハンナは、ペニンナには子どもがいるのに、なぜ自分にはないかと恨む祈りをしていました。そのようなある日、自分の未来のため子どもではなく、ナジル人を求めて祈りを変え、世界福音化に用いられるサムエルを抱くようになりました。このように、不信仰を壊して正しい契約を回復すれば、個人はもちろん、世の中を生かす御座の祝福が臨みます。今から私たちはどんな祈りをささげれば良いのでしょうか。

1. 天の御座を動かす権威を味わう祈り

聖書で神様は、天の御座の祝福で私たちいつもともにいると言われます。この事実を信じたサムエルは、天の御座を動かして、全世界に光を照らす権威を体験し、ペリシテが攻め込むわざわいの中で、ひとりで暗やみの勢力を打ち砕く祈りをしました。すると、サムエルが生きている間は、戦争が終わって平和が臨み、彼を見た者は神様に仕える働きが起こりました。

2. 次世代に祝福を伝達する祈り

サムエルに臨んだ祝福が次世代ダビデに伝えられました。主の霊が激しく下ったダビデは、幼いときから神様を賛美する数十篇の作品を記録し、悪い霊が離れるほどの霊力と知力を兼ね備えていました。また、ゴリヤテが主なる神様を侮辱して、すべての人が回避するときも、幼いダビデは一人で大胆にキリストの力をあかししました。

私を持っている力と背景が、いくら取るに足らないもののように見えても、神様の御手に捕らえられるならば、危機を止め、世の中を生かす者になります。正しい契約を回復するその瞬間、神様は理解を越えた大いなる答えを見せてくださいます。

契約の祈り

神様、今この時間、天の御座の祝福が全世界に伝えられて、ただ主なる神様だけが栄光を受ける時間になるように祈ります。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

07

M A Y・土

Remnant の覚悟

1サム 18:6～9 サウルは、このことばを聞いて、非常に怒り、不満に思ってしまった。「ダビデには万を当て、私には千を当てた。彼にないのは王位だけだ。」その日以来、サウルはダビデを疑いの目で見えるようになった。(8～9)

新 29 番 いざ、聖徒よ (旧 29 番 いざ、聖徒よ)

- 聖句暗唱_ヤコ 4:7
- 聖書通読_使 23:19-20

Q.

文字で残す祈り

考えや仕事の内容を文字で残す作業はかなり意味があって重要です。考えは一か所から、また、他の所にあつという間に移って消えてしまったりもします。みことばを考えて再確認する脳の作用に劣らず、手で文字を書いてその内容を残すこともまた必要です。毎日一行の黙想と一行の祈り文を書いてみることも、とても良い祈りになることができます。

答えが直ちに来たり、神秘的な体験をすることがなくてもかまいません。答えが来ても来なくても祈ることが、祈りです。神様が私とともにおられることを意識して確認することが祈りです。ダビデは、この祈りの奥義をどのように味わったのでしょうか。

1. 問題と事件を見る目

ダビデは羊飼いだったとき、いつも神様のみことばを黙想していました。みことばを深く黙想して、賛美して、さまざまな詩を書き詩篇、生活の中で神様を見上げて深く祈っていました。羊飼いだったとき「主は私の羊飼い」と告白し、王になったときは「私の王である主」と表現しました。神様はダビデが羊飼いだったときに、すでに王として用いることを決めておられ、詩 78:70～72 ダビデは、ペリシテのゴリヤテと対決して、サウルに追われて命が危ない状況が続いていたときにも、神様だけを見上げて神様が願われるとおりに決めて行動しました。

2. 過程全体が答え

過去は今日のためのものであり、今日は未来のためです。幼いときに見聞きして感じたことは、簡単に忘れることはなく、一生ひとりの人生に影響を与えます。幼いときから福音を聞いて礼拝をささげて祈りを学んだ Remnant は、福音が刻印されて、生きている神様のみことばが根をおろし、すべてのことに神様の計画を見つける祈りの体質で育つようになります。もしかして、問題と事件が目の前に来たとしても、心配しなくても良い理由は、神様が今、私たちとともにおられ、放っておかれることはなく、結局、その問題と事件を通して、より大きな答えで私たちを導いて行ってくださるからです。

契約の祈り

神様、問題と事件はすべて答えの過程であることを信じます。私たちに最も良いことで答えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン